

自信をもって、積極的に話そうとする態度をはぐくむ外国語活動の工夫

—学習過程に「楽しく言い慣れる活動」を繰り返し取り入れて—

小学校外国語活動班 宮崎 由紀子(小学校教諭)

児童の実態

英語のゲーム大好き！
ダンスイングリッシュや
チャンツ大好き！

何て言っていかが
分からない。
話すことに自信がない。

願い

自信をもって
積極的に話そう
とする態度を
はぐくみたい。

実践

英語の語彙や表現に十分に慣れ
親しませ、「言い方が分かった・
言えるようになった」と
いう自信をもたせるために
「楽しく言い慣れる活動」
を繰り返し取り入れる。

音やリズムを使った「楽しく言い慣れる活動」

歌やチャンツを使って、何度も繰り返し言い慣れる。
 ・CDやビデオ教材の活用
 ・キーボードのリズムを使ったオリジナルチャンツ
 動作や手拍子を取り入れて、何度も繰り返し言い慣れる。

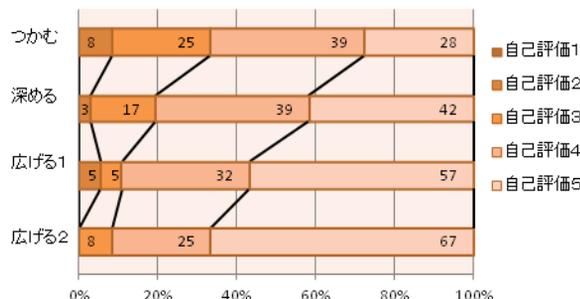
英語の意味をとらえる「楽しく言い慣れる活動」

カルタや神経衰弱などのカードゲームの中で
繰り返し言い慣れる。
 ・ALTの発音を聞いて意味をとらえ、カードを選ぶ
 ・カードをめくる際に、絵を見て意味をとらえ発話する

分かる英語を選んで使う「楽しく言い慣れる活動」

覚えた語彙や表現の中から分かる英語を選び、
やりとりの中で繰り返し言い慣れる。
 ・分かる語彙や表現のカードを用いてクイズを出し合う
 ・分かる語彙や表現を使ってゲームを行う

「言えるようになった」という自己評価の変容(5段階評価で)



「言えるようになった」と
実感し、積極的に話そう
とする児童が増えた。



成果

- キーボードを使ったオリジナルチャンツは、どんな単語にも対応でき、手拍子を入れながら楽しくリズムに乗って何度も繰り返して言い慣れることができた。
- ゲームの中で何度も繰り返して言い慣れることで、自然に何度も発話でき、英語の意味をとらえ、言えるようになったと実感した児童が増えた。
- 分かる英語を使ってやりとりをすることで、さらに自信が生まれ、積極的に話そうとする態度をはぐくむことができた。

課題

- キーボードは速さが自由に設定できるので、言い方を確かめながらゆっくりチャンツを行ったり、テンポを速くして挑戦し、「言える」という自信や意欲を高めたりするなどねらいにそった速さを考えることが必要である。
- 語彙や表現を単に何度も繰り返すだけでなく、課題の難易度を上げたり、知的な好奇心を喚起するような「楽しく言い慣れる活動」を工夫していくことが必要である。